

(第3種郵便物認可)

「社会公益賞」の団体に

東京キウニス 50回目の贈呈式

社会奉仕団体の「東京キウニスクラブ」(千代田区内神田)が、地道な活動で社会貢献した団体をたたえる「社会公益賞」の贈呈式が2日、千代田区霞が関の法曹会館で行われた。

病気の子ら支援

贈呈式は今年で50回を迎えた。今回は最優秀賞に江東区の「こどもたちから」、優秀賞に西東京市の「さーくる縁」と荒川区の「こころの青



表彰状を受け取る「こどもたちから」理事長の井上さん(左)(2日、千代田区で)

最優秀賞 ことものちから
優秀賞 さーくる縁 青空基金

空基金」が選ばれ、同クラブの吉国真一会長から、各団体の代表に表彰状が贈られた。

「こどもたちから」は理事長の井上るみ子さん(57)を中心に2008年3月に活動を開始。国立がん研究センター中央病院(中央区)で、小児がんなど難病で入院する子供や、待合室を訪れるきょうだいの遊び相手をする活動を続けてきた。

井上さんは「入院している子供のきょうだいは、家族のことを思いやるあまり自分を押し殺している部分もある。自分らしく生きてほしいという思いを伝えたい」と語った。

「さーくる縁」は2009年に設立され、障害や病気の子どもとその保護者同士で交流や情報交換を行っている。代表の川村紀子さん(49)は「苦しい時も他の人とのつながりがあれば困難に立ち向かえる。受賞をエールと受け止め進んでいきたい」と話した。

「こころの青空基金」は元プロボクサーの坂本博之さん(45)が代表となり、2000年に発足。全国の児童養護施設を訪問し、ボクシングを通して子供たちを勇気づける活動をしている。坂本さんは「これからも全国の児童に『熱』という形で愛を届けていきたい」とあいさつした。